21年7月31日（金）
奈良新聞
朝・夕

清流復活へ 大和川の挑戦 7

「日本一汚い川」からの脱却

体験参加で愛護意識

「県山の日・川の日」の取り組み

県は、昨年度に7月の第3月曜を「奈良県山の日・川の日」とする全国でも初めての条例を制定した。海に面していない県は、山と川が身近な自然であり、美しい山と川をはぐくみ次世代へ引き継ぐ狙いがある。

今年は今月20日を中心に全部で15のイベントを開催。この中には水質改善に向けた大和川清流復活ネットワークの取り組みとして、NPOとの協働イベントも開催された。「ふるさと大和川源流体験ツアー」と「歴史・文化講座～くらしと川のかかわり」である。

「ふるさと大和川源流体験ツアー」は桜井市で開催された。参加者は山辺の道を南下し、大神神社や金屋の石仏から大和川を遡（そ）行してきた舟運の終着地であった海拓榴市まで巡り、川の重要な役割について学んだ。

NPOとの協働イベント「ふるさと大和川源流体験ツアー」＝今月20日、明日香村栢森の飛鳥川

「明日香村栢森の飛鳥川体験ツアー」は明日香村栢森の飛鳥川が舞台。参加した子どもたちは、川の石をひっくり返して採集したサワガニやカゲロウなどを観察。豊かな生態系が息づく源流の自然の良さを実感した。

また「歴史・文化講座～くらしと川のかかわ」は20日に先立って14日に開催された。

県河川課は「河川愛護意識が高まってきており、イベントへの応募・参加者も増えてきている。イベントに参加し、実際に川の水質を知ってもらうことにより、川を汚さないよう生活排水の浄化など、川への気遣いを持ってもらえるのでは」と期待している。

＝毎月1回、下旬に掲載＝

当記事を奈良新聞社に無断転載することを禁じます。